国際衛星放送をめぐる動向

ＮＨＫ放送文化研究所　所長　山崎　隆保

ＢＳ－３シリーズは非常に安定して放送をつづけており，衛星放送受信世帯は700万世帯を越えた．テレビの歴史の中でＶＴＲは時間的格差，衛星は地域的格差を取り除いた点で非常に大きな意味をもっている．この２－３年のうちにアジアの衛星業界は大変な変貌を遂げるだろう．

ふりかえってみると，1962年にテレスター１号による太平洋横断テレビ中継が始まり，1963年にはケネディ暗殺の歴史的な映像が中継，1964年には東京オリンピック中継，そして1965年インテルサットのネットワーク完成によって衛星によるテレビ映像の素材伝送が定着した．その第２期は国内の番組配信，そしてＳＮＧというニュース素材伝送技術が完成して，中継の困難な辺地から衛星経由で緊急映像を放送する体制が確立した．このころ北米で本格的な衛星通信によるＣＡＴＶへの映像配信の時代が始まる．1989年に国境を越えて全欧州に向けた広域放送をするルクセンブルグの衛星アストラが業務を成功させて国際衛星テレビ放送の時代，Direct to Home の時代に突入した．1991年にはアジアにも香港，中国，英国が均等に出資するアジアサット衛星スターテレビが業務を開始し，その放送は日本でも受信できることとなった．現在その視聴者数は1,120万世帯となっており，５チャンネルによる英語，中国語によるニュース，スポーツ，映画などの放送が行なわれている．

こうした動きはそれまでの国際間衛星通信に関するインテルサット機構の独占体制にも影響を及ぼし，私設の衛星通信事業を認めようとするオープンスカイポリシーの採択と，ユーテルサット，アラブサットなど地域衛星が実現した．米国では２度間隔の軌道に米国，カナダ，メキシコ，ブラジルなどの通信衛星がひしめいており，アジアでも日本，中国，インド，オーストラリア，インドネシアなどが通信衛星を運営している．米国におけるこれらの衛星は，主として国内にある約100のＣＡＴＶへの映像配信に使用されている．来春サービスの開始が予定されているディジタル衛星は150のチャンネルサービスを一挙に空から行なう計画であるし，ヨーロッパではアストラ・ユーテルサット衛星による汎ヨーロッパサービスの拡大が行なわれている．その陰には独仏の共同による大出力国内サービスの失敗なども見られるが，今後タイコム，アジアサット２などの打ち上げにつづいて1995年にはコリアサットも予定されている．こうして全世界のネットワーク作りを目的とするもの，複数の国を対象とした専門番組のサービス，特定の言語圏を対象とする言語別サービスなど新しい衛星サービスが世界のあちこちで行なわれており，米欧の衛星業者，ソフト業者は積極的にアジアへの参入を行なおうとしている．

実態が先行するこうした状況に対して，これまでの国内法規では対応が不可能な状況となっており，各国とも国外からの放送への対応に苦慮している．アジア地域にはＥＣのような統一基準はなく，日本の郵政省は外国電波の受信についての規制を緩和する方向で検討を進めており，米国のＦＣＣは外国の衛星放送を受信する受信機の設置について免許制から許可制に変更するなど各国が個別の対応を迫られている．

Ｑ：外国の放送を受けて何が問題なのか

Ａ：国の政策とかメディアの進展度，情報総量によって国の政策が問題があると思っているのです．欧州，アジアではまだ放送時間も少ないから．

Ｑ：日本に外国の衛星放送がどの程度浸透するだろうか

Ａ：日本に国産番組保護政策はないが，スポーツ，音楽以外外国番組が割合入らない．国内の番組制作力が未だしのアジア諸国では問題が大きいかもしれない．

Ｑ：アジアサットを見るには別の装置が必要か

Ａ：周波数が違うので別のチューナーが必要です．ただスクランブルはかかっていない．

Ｑ：衛星放送が妨害されるということはないのか

Ａ：地上放送ではジャミングということがあった．衛星も技術的にはできるが，強い電波を出すのに大きな金がかかるのでそれほどの意味があるかどうか．

【今後の予定】　９月８日　バイオ技術と食糧―バイオシステムインターナショナル社長　松宮　弘幸

10月以降は秋期プログラム（東京大学 徐 敏堯 記）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．